史

歴史学習帳　テーマ編

天皇の正統性と三種の神器

神話はどう書かれ、
しるしはどう守られてきたのか

鏡　剣　勾玉



数字や年はおおよその目安です／挿絵：Geminiで生成した想像図

第1部　物語を書く

神様の物語？
いいえ、政治の書。

『古事記』『日本書紀』は、神話の本である前に、
「天皇がこの国を治める理由」を説明するために、国が作った本。

二冊の比較

	古事記	日本書紀
成立	712年	720年
編者	太安万侶（稗田阿礼が語ったものを書き取る）	舎人親王ら
巻数	3巻	30巻（系図1巻は失われた）
書き方	漢字で日本語を書く（変体漢文）	中国の歴史書にならった漢文、年ごとに書く
性格	天皇家の由来を一本の物語に	国の正式な歴史（六国史の最初）
異説	ほぼ載せない	「一書に曰く」で別の説を並べる

なぜ作られたのか

672年
壬申の乱
勝った天武天皇が、新しい国づくりを始める

→

そのころ
ばらばらの伝承
豪族ごとに、伝わる系図や物語が違う

→

681年ほか
天武天皇の命令
誤りの多い帝紀・旧辞を正しく定めさせる

→

712年・720年
記紀の完成
「天皇家が治める理由」が一つにまとまる

> 二冊とも、内乱に勝った天皇のもとで始まった事業。

神話から歴史への「グラデーション」

どこかで急に「歴史」が始まるのではなく、神々から天皇へ、少しずつ地続きになるように書かれている。

記録にもとづく歴史（推古・天武・持統）　神と人のあいだ（神武〜）　神々の世界



三種の神器とは

鏡

八咫鏡

やたのかがみ

本体は**伊勢神宮**（内宮）に祀られているとされる

剣

草薙剣

くさなぎのつるぎ

本体は**熱田神宮**（名古屋）に祀られているとされる

勾玉

八尺瓊勾玉

やさかにのまがたま

皇居に置かれているとされる

天皇の位を受け継いだしるし。実物は天皇も見ないとされ、形も大きさも公にされていない。

神話の舞台

神武天皇の東征

ヤマトタケルの道（行き）

ヤマトタケルの道（帰り）

伝承地

天から降りるのは九州、国を譲るのは出雲、都を開くのは大和。記紀に出てくる場所を「ここ」と伝える土地です。



天岩戸
鏡と勾玉

隠れる

スサノオの乱暴に怒ったアマテラスが岩戸に隠れ、世界が闇に

作る

神々が鏡と勾玉を作り、岩戸の前で祭りをする

戻る

鏡に映った自分を「より尊い神」と思ったアマテラスが身を乗り出し、光が戻る



第２部　しるしを授ける

ヤマタノオロチ
剣

高天原を追われたスサノオが、出雲でオロチを退治する。尾から一振りの剣が現れ、スサノオはこれをアマテラスに献上した。

剣の名前は記紀で違う

古事記：この場面から草那芸之大刀

日本書紀：天叢雲剣 → のちに草薙剣



出雲（伝承地）



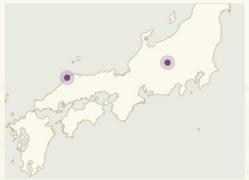
第２部　しるしを授ける

国譲り
出雲から天の神へ

地上を治めていたのは、出雲のオオクニヌシ

天の神々が使者を送り、「この国は天の神の子孫が治める」と迫る。力比べに負けた子のタケミナカタは諏訪へ

大きな社に祀られることを条件に、国を譲る



出雲大社・諏訪（伝承地）

天孫降臨
しるしを授ける

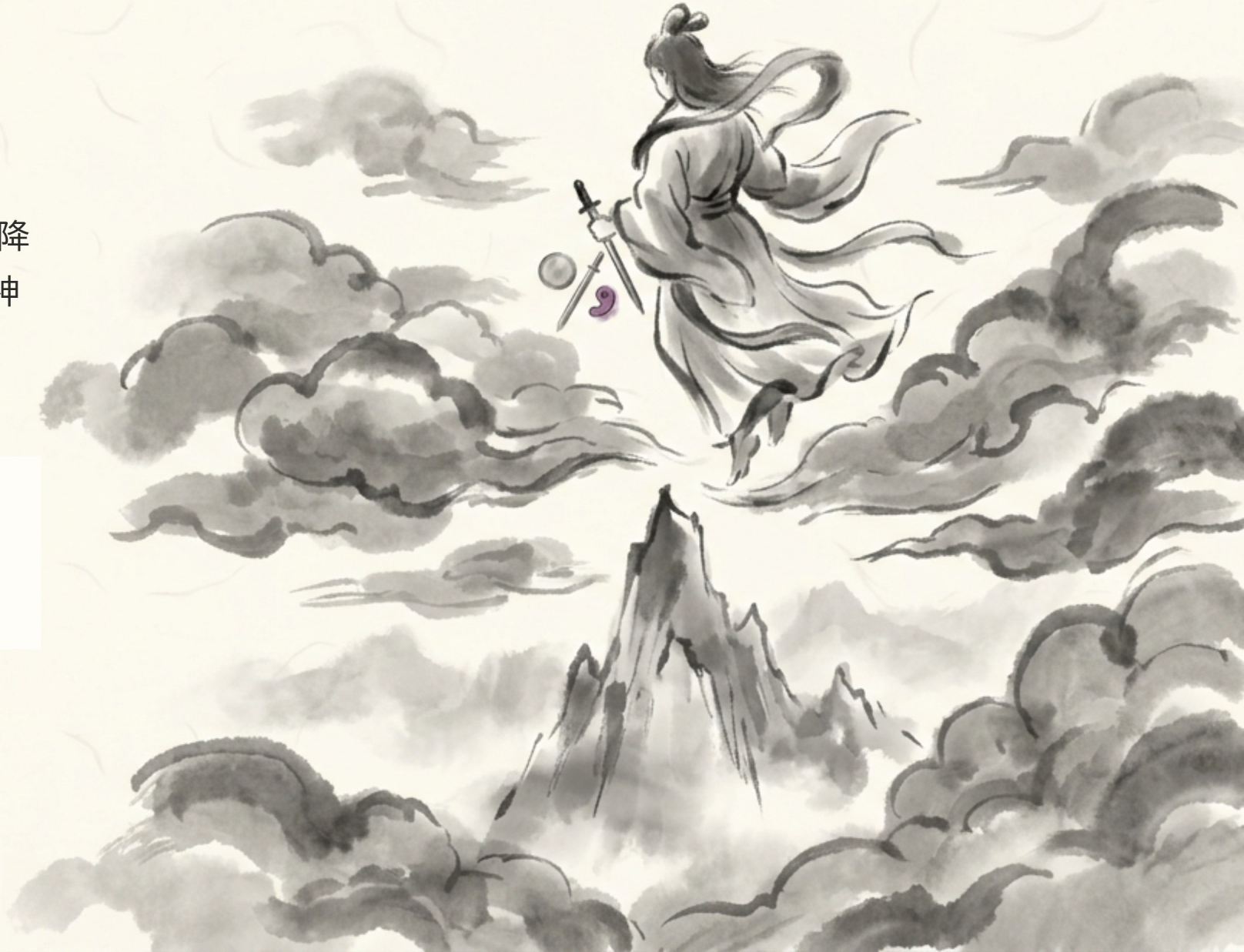
アマテラスの孫ニニギが、日向の高千穂に降りる。そのとき鏡・剣・勾玉が授けられた。神から天皇家の祖先へ、しるしが手渡された場面。

ここも記紀で違う

授ける場面は、古事記と日本書紀の「一書」にある。日本書紀の本文にはない。



高千穂（伝承地）



神から人へ

神武天皇

ニニギのひ孫。九州から東へ進み、熊野から八咫烏に導かれて大和へ。橿原で初代天皇となる。ここから「人代」。

ヤマトタケル

伊勢で叔母のヤマトヒメから剣を授かり東国へ。火を放たれた野で草を払って助かる。剣を尾張に置いて伊吹山へ向かい、命を落とす。残された剣を祀ったのが熱田神宮のはじまり。



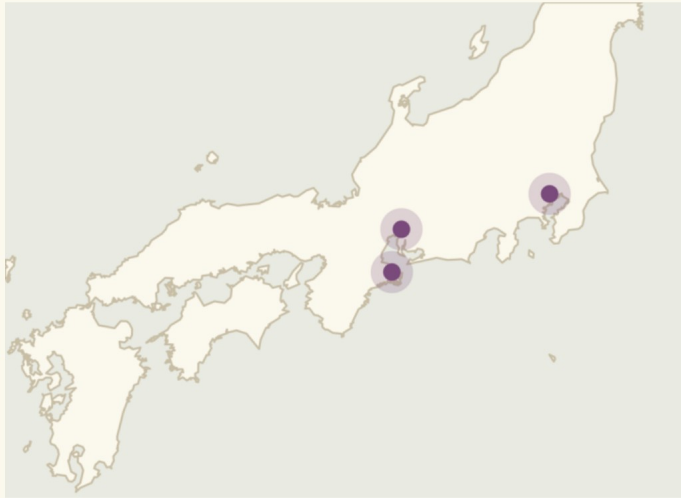
橿原・熱田（伝承地）



「本体」と「形代」

神器	本体があるとされる場所	宮中にあるもの
八咫鏡	伊勢神宮	形代（賢所）
草薙剣	熱田神宮	形代（剣璽の間）
八尺瓊勾玉	皇居	本体（剣璽の間）

> このあと事件で「失われた」「奪われた」のは、宮中の形代や勾玉のほう。それでも、本体と同じ重みで扱われた。



伊勢神宮・熱田神宮・皇居

第３部　しるしが試される

神器がたどった道

— 1183年　平氏とともに西へ

— 1336年・1443年　吉野へ

● 実際の出来事の場所

神器は都を出るたびに、天皇が二人並ぶ事態を生んだ。西へ動けば源平、南へ動けば南北朝。



神器がたどった道（年表）

668	熱田の剣が新羅の僧・道行に盗まれかけ、取り戻される
960	内裏の火事で宮中の鏡が焼ける（このあとも何度も）
1183	神器が平氏とともに西へ。後鳥羽天皇は神器なしで即位
1185	壇ノ浦で安徳天皇とともに沈み、剣が見つからない
1210ごろ	伊勢神宮から献上された剣を、新しい宝剣とする
1336	後醍醐天皇が吉野へ。「北朝に渡したのは偽物」と主張
1392	南朝から北朝へ神器が渡り、南北朝が一つに
1443	南朝の再興をめざす人々が内裏を襲い、剣と勾玉を奪う
1458	奪われた勾玉が京都へ戻る
2019	今の天皇の即位でも、剣と勾玉を受け継ぐ儀式が行われる

第３部　しるしが試される　１１８３～１１８５年

天皇が二人、神器は一組

安徳天皇

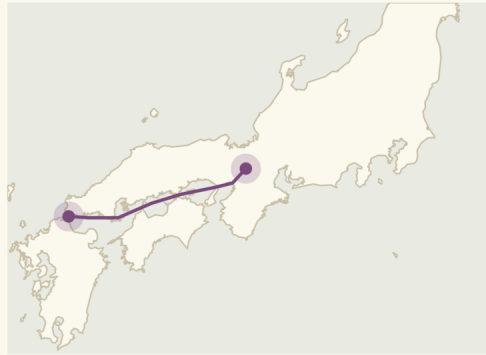
平氏とともに西国へ

神器を**持っている。**
でも、都にはいない。

後鳥羽天皇

後白河上皇が京都で立てる

都にいる。
でも、神器を**持っていない。**



京都から西国へ

> しるしと、都で実権を握る上皇の決定。このときは、上皇の決定が勝った。

第３部　しるしが試される　１１８５年

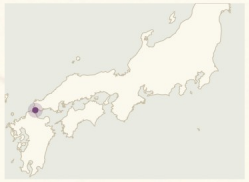
神器が
海に沈んだ日

鏡　引き上げられた

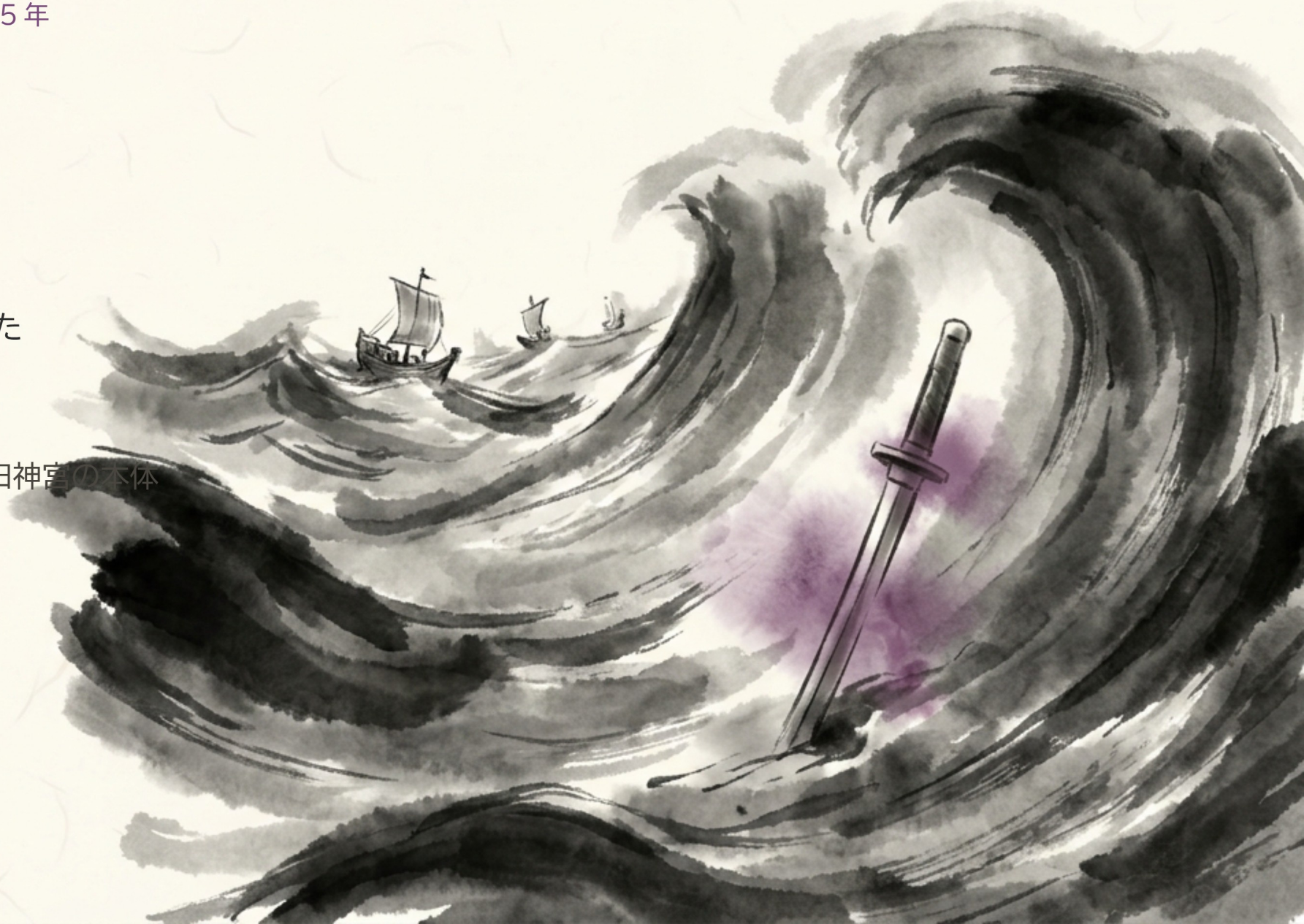
勾玉　箱ごと浮かび、回収された

剣　見つからなかった

失われたのは宮中の剣の形代。熱田神宮の本体は無事だったとされる。



壇ノ浦



どちらの神器が本物か

1336年

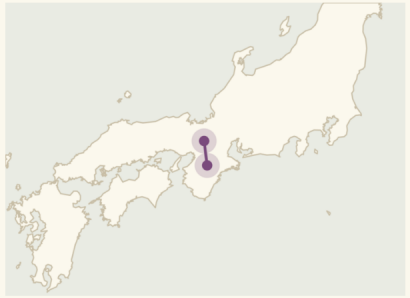
後醍醐天皇が、足利尊氏の立てた北朝の天皇に神器を渡す

同じ年

吉野へ移り、「渡したのは偽物、本物はここにある」と主張（南朝）

1392年

南朝の後亀山天皇が北朝の後小松天皇へ神器を渡し、一つになる



京都と吉野

> 実物を誰も見ないことが、かえって「どちらが本物か」を決めにくくした。

第３部　しるしが試される　１４４３～１４５８年

南北朝が終わっても、神器は狙われた

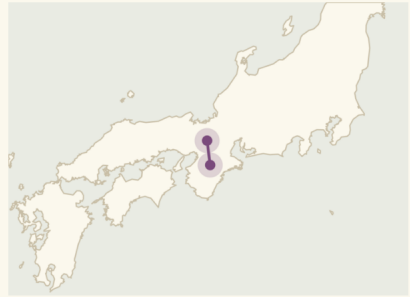
1443年　禁闕の変。南朝の再興をめざす人々が京都の内裏を襲い、剣と勾玉を奪った。

剣　まもなく見つかる

京都の清水寺で見つかり、内裏に戻された

勾玉　15年、南朝方の手に

吉野の山奥へ。1458年、赤松氏の旧臣たちが取り返し、京都へ戻した（長禄の変）



京都と吉野

しるしの意味づけが変わる：三つの徳

神器	『神皇正統記』（14世紀・北畠親房）	江戸時代の儒学の読み方
鏡	正直	知
勾玉	慈悲	仁
剣	智恵（決断）	勇

> 剣が「智恵」から「勇」に入れ替わっている。意味づけは、その時代が天皇に何を求めたかを映している。

今も、代替わりで受け継がれる

剣璽等承継の儀

新しい天皇が、剣と勾玉、国の印（国璽）と天皇の印（御璽）を受け継ぐ。2019年5月1日にも行われた。

見せない宝

儀式でも、剣と勾玉は箱に収められたまま。中身が人の目に触れることはない。



皇居



まとめ

権力ではなく、正統性のしるし

中国の玉璽

皇帝の印。王朝が替わるたびに新しい王朝へ渡った。手に入れることが「天命が移った」証になった。

日本の三種の神器

争ったのは、いつも天皇家の内側。藤原氏も平氏も将軍も、神器を自分の位のしるしにしようとはしなかった。

実権者は替わった

摂関家、上皇、平氏、将軍、執権

しるしは動かなかった

いつも天皇家の手もとに

だから天皇家は残った

権力は奪うより、借りるもの